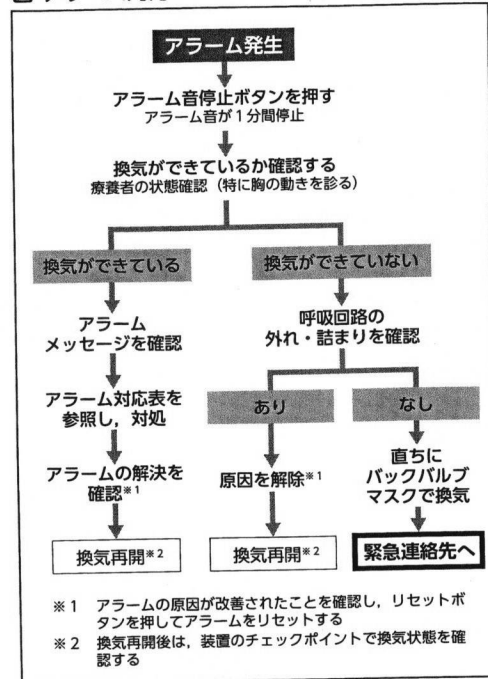


図 アラーム対応



呼吸音や頸部聴診、人工呼吸器のリーク値の確認を行って調整する。また、体位や頸部の角度によって圧が変わることを介護者に説明し、適宜確認するように説明する(写真2)。

機器データ：設定内容、アラーム内容、気道内圧や一回換気量、回路のトラブルの有無(写真3)などを、人工呼吸器のチェックリストを用いて確認する。また、呼吸器回路の交換は家族もしくは医療従事者が行うため、回路の交換頻度や注意点について業者に確認しておく必要がある。

●訪問時のチェックポイント

訪問時にチェックするポイントを表3、4に示します。

●緊急・災害・停電時の対応

機器のトラブルや体調の悪化が生じた際の対応方法や入院の受け入れ先に関して、家族や介護者などと十分に話し合っておく必要が

または別の人工呼吸器)に切り替える。

●回路点検してください「高」

対応方法：呼吸回路を点検し、ねじれたり挟んだりしていないか、適切に接続されているかを確認する。

●無呼吸「高」

対応方法：患者の呼吸状態を確認する。圧ライン使用時は、挟まれていないか、結露していないかを確認する。

●Vte上限/下限, Vti上限/下限, 呼吸回数上限/下限, 分時換気量上限/下限「高」

対応方法：患者の呼吸状態を確認する。

●吸気圧下限「高」

対応方法：患者の呼吸状態を確認する。呼吸回路にリークがないか、または回路が外れていないか確認する。

●高温「中～高」

対応方法：装置の近くに熱源がないか確認する。フィルターが目詰まりしていないか、または冷却用通気口が塞がれていないかを確認する。装置を内部および脱着式バッテリーで動作させている場合、AC電源に切り替える。

これらの対応を行ってもアラームが鳴る場合は、患者から装置を取り外してバックバルブマスクなどで換気を行い、メーカーなどに連絡します。

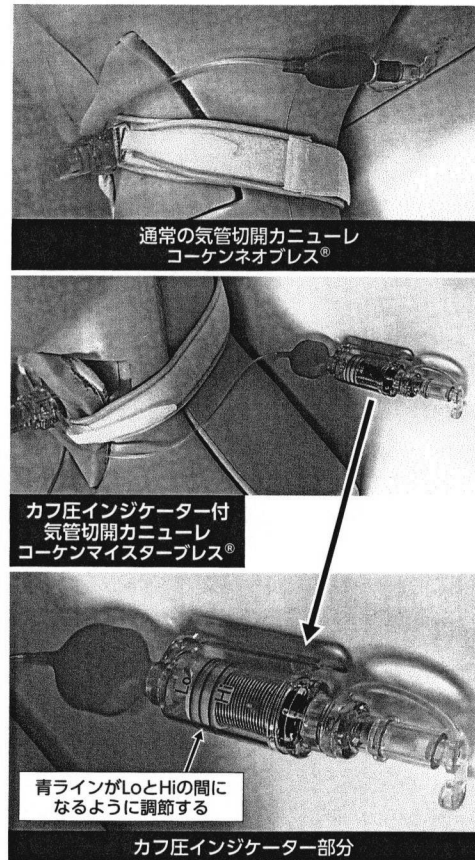
●在宅TPPV使用中の観察

一般状態：バイタルサイン、酸素飽和度、意識レベル、精神状態など

呼吸状態：呼吸数、自発呼吸の有無、呼吸音とパターン、呼吸困難感の有無、痰の量と性状、胸郭の動き、気管カニューレのカフ圧の確認など

※カフ圧の設定は医師の指示に従う。在宅の場合は、カフ圧計がないことが多く、

写真2 気管切開カニューレのカフ圧調節



あります。緊急時の各種連絡先は、電話機の近くなどに掲示し、家族以外の介護者にも分かりやすいようにします。

体調の悪化時は、すぐに訪問看護ステーションもしくは医師へ、機器のトラブルの場合は、機器の取り扱い業者もしくは訪問看護ステーションへ連絡するように指導します。トラブルシューティングの一覧を機器の近くに置いておくと、落ち着いた対応がしやすくなります。加えて、緊急用のバッテリーや酸素ボンベ、バックバルブマスクなどを備えておき、定期的に動作チェックを行います。

災害・地震の備えとしての非常持ち出し品は、備蓄品から必要なものを選び、必要数を

写真3 意図しない呼吸回路外れを防止する器具

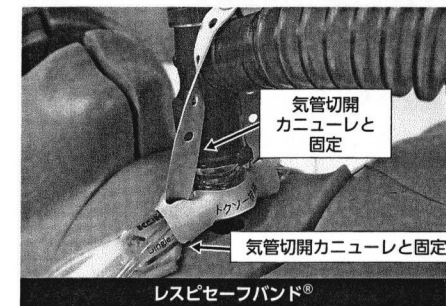


表3 患者状態のチェックポイント

患者状態	全身的な状態	顔色、浮腫、末梢冷感、チアノーゼの有無など気管切開部を含めた皮膚状態(発赤、びらんなど)
	バイタルサイン	心拍数、血圧、SpO ₂ (陽圧換気による血圧の変動、頻脈に特に注意)
	呼吸状態	呼吸数、呼吸パターン、努力呼吸、無呼吸の有無など呼吸音の大きさ、左右差、複雑音の有無、種類など
	咳嗽の有無	痰の量・性状など
	聞き取り	自覚症状の改善頭痛・胸痛・浮腫の有無、睡眠状況、労作時の変化など
	排泄状況	腹部膨満の有無、下剤などの服用状況も含む
	栄養や水分の摂取量	
	口腔ケアや身体の清潔ケアの状態	
	日誌の確認	
	災害時や緊急時の準備状況	

※介護者の疲労度、心理状態などにも気を配り、傾聴しながら観察を行う。必要があればレスパイトケアも考慮する。

準備しておきます。また、地震などの発生時に人工呼吸器に落下しないように、タンスや棚、テレビなどは金具などで固定します。玄関などが開かなくなることも考慮し、室内から外への複数の避難経路を考えておきます。さらに、あらかじめ機器の業者や医療機関・看護師の連絡先、機器の設定条件などを一覧にして、分かりやすい場所に提示しておくよう指導します。

停電時は、機器がバッテリーで動作してい